

学習ポイント 1

同じ読みの言葉を文脈から選ぶ

読みが同じでも、漢字が変わると意味が変わる。学校生活や説明文の中で、適切な語を選ぶ練習をしよう。

目標 同音異義語の意味の違いを理解する。／前後の言葉を手がかりに、適切な漢字を選ぶ。／誤変換を直し、使い分けの理由を説明する。

音だけでなく意味を確かめる

同音異義語は、読みが同じで意味が違う言葉。聞こえた音だけで漢字を決めず、前後の文から何を指すか考える。まず、対象の言葉をやさしい言葉に言い換えてみよう。

例1 『校長』は学校の長。『好調』は調子のよいこと。同じ『こうちょう』でも意味は違う。

例2 『公園』は遊んだり散歩したりする場所。『講演』は人々の前で話をする事。

例3 『こうえんを聞く』なら、場所ではなく話を聞くので『講演』を使う。

一緒に使われる言葉を見る

周囲の名詞や動詞は、意味をしぼる手がかりになる。語だけを暗記するより、『何をどうする』という短いまとまりで覚えると使いやすい。

例1 工場で働く『機械』／再挑戦する『機会』

例2 食べ物の『消化』／火事の『消火』

例3 性質を表す『性格』／間違いのない『正確』

漢字一字の意味も利用する

熟語の一字に注目すると、候補の違いを整理できる。ただし、一字の意味だけで決めつけず、熟語全体の意味を文に当てはめて確かめる。

例1 『観戦』の『観』は見る事。『感染』の『感』と区別する。

例2 『衛星』の『星』は天体。『衛生』は清潔さや健康に関わる。

例3 『人口』は人の数、『人工』は人の手が加わることを表す。

学習ポイント 2

同じ読みの言葉を文脈から選ぶ

似た場面でも中心の意味は違う

同じ話題の中で使われる同音異義語もある。『何について述べているか』を、できるだけ具体的に読み取ろう。

例1 『関心』は気になることに心を向けること。『感心』は立派だと思うこと。

例2 『意思』は考えや気持ち。『意志』は、何かを実行しようとする心の働き。

例3 『対照』は比べ合わせること。『対称』は、左右の形などが互いに対応してつり合うこと。

誤変換を見つける

変換された漢字が実在する言葉でも、文の意味に合うとは限らない。読み直すときは、同じ読みの別の言葉に置き換わっていないか確かめる。

例1 『作業の効率を上げる』の『効率』を『公立』と変換しない。『公立』は自治体が設立したこと。

例2 『新しい方法を試行する』は試して行うこと。考える活動なら『思考』になる。

例3 『原稿を校正する』は文字の誤りなどを直すこと。全体の組み立てを考えるなら『構成』を使う。

違いを説明して定着させる

答えを選んだら、別の候補を使わない理由も言えるようにする。『この文では〇〇の意味だから』と説明し、自分でも別の例文を作ろう。

例1 『効果』は働きによって生じる結果。『硬貨』は金属のお金。

例2 『回収』は物を集めて戻すこと。『改修』は建物などの悪い部分を直すこと。

例3 『強調』は目立たせて強く述べること。『協調』は互いに歩み寄り、調子を合わせて協力すること。

使い方と参考資料

取り組み方・表記の基準・参照資料

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順に取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

中学2年生の基礎～標準を中心に、既習事項の復習と文脈に応じた使い分けを扱います。全語が全国共通の中2新出事項という意味ではありません。

罫線は10mm間隔です。解答欄の番号や表示に合わせて答えなさい。余った行は空けて構いません。

本教材では、学習用の標準的な表記を練習します。辞書に認められる異表記をすべて解答に挙げているわけではありません。言い換え・別読・送り仮名は、各問の解答と採点基準を確認してください。

設問と例文はオリジナルです。特定の入試の出題頻度を示す教材ではありません。学習範囲や語義・表記は、次の資料を参照しました。

1 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』第2学年・語彙

2 漢字ペディア『保証』

3 漢字ペディア『保障』

4 漢字ペディア『行程』

5 漢字ペディア『制作』

6 漢字ペディア「意志」

7 漢字ペディア「対称」

8 漢字ペディア「協調」

9 漢字ペディア「感染」

資料確認日 2026年10月12日。資料名から参照ページを開けます。